

平成28年度 事業報告書

平成28年1月1日 から 平成28年12月31日まで

特定非営利活動法人フレンズ・ウィズアウト・ア・ボーダーJAPAN

1. 事業実施の方針

ラオス・ルアンパバーンに開院した「ラオ・フレンズ小児病院 (LFHC)」は、7 月末に手術室が、10 月末に新生児室がオープンし、院内すべての部署が稼働した。患者数は昨年未までのべ 1 万人程度で、特に雨季の時期には腸チフスが大流行した。また、ラオスでは遺伝性の血液疾患（サラセミア）が多くみられるため、首都のビエンチャンより専門家を招き、サラセミア専門外来を開くに至った。医療教育においては、ビエンチャンや海外から専門分野の指導者を受け入れ、カリキュラムに沿った教育を提供した。個人の患者に対する訪問看護、HIV/AIDS ケア、健康予防啓蒙活動を担うアウトリーチプログラムも実施しており、訪問数は 200 件を超えた。アンコール小児病院 (AHC) の教育支援事業、地域医療支援事業への継続支援も行い、カンボジア人医療従事者の増加と医療レベルの向上を図った。

ミャンマーでは現地 NGO と提携し、村における健康・衛生・栄養等の改善、衛生予防指導事業を行った。

国内では事業拡大に伴い、事務所を目黒から日本橋小伝馬町へ移転した。広報活動として、他団体との共同イベントの開催、団体設立 20 周年を記念した LFHC と AHC を巡るツアーを催行し、団体の認知度を広めることに努めた。また、クラウドファンディングへの挑戦や東京では初めてとなるガライベントを開催し、運営資金の確保に繋げた。またニュースレターやリーフレットを作成し、これらを広く活用した普及啓発活動を実施した。

恒例となった赤尾看護師の報告会の開催や「ラオスフェスティバル」に参加し、プロジェクトの進捗報告及び活動の紹介を行った。青森県の中学校ではエイズ普及啓発事業として「エイズと命」をテーマとする講演を行った。医療用品等の輸送・運搬事業も行い、現地で必要とされている物資を病院へ届けた。

2. 事業の実施に関する事項

(1) 特定非営利活動に係る事業

事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者人数	受益対象者の範囲及び人数	支出額(千円)
医療教育支援事業	カンボジア国内での医療及び看護教育の実施、国外における教育研修の場への参加に係る支援を行った。	通年	アンコール小児病院	のべ100人	カンボジア人医療従事者のべ3,000人程度	23,907
医療施設運営事業	「ラオ・フレンズ小児病院」の運営	通年	ラオ・フレンズ小児病院	約80人	ルアンパバーン地区子供、のべ約1万人	41,971
地域医療支援事業	保健センター支援、村の保健ボランティアの育成、地域の各学校における衛生予防指導等を行った。	通年	カンボジア・シェムリアップ、他地域	10人	各地区計、のべ約25万人	6,236
派遣・教育事業	専門家を派遣し、スタッフへの医療や英語教育を行った。	通年	ルアンパバーン県、近隣地域	8人	ラオ・フレンズ小児病院スタッフ約80名	828
衛生予防指導事業	適切な医療を受けることが困難な地域で衛生予防や栄養教育を行った。	通年	ミャンマー、他地域	5人	ミャンマー・ヤンゴン地区の子供、親約1,000人	1,921
機材・薬品運搬事業	寄贈された物品や薬品、備品の輸送手配や、運搬を行った。	通年	法人事務所、他	26人	医療従事者と患者の不特定多数	29
エイズ普及啓発事業	青森県の中学校で、3年生に「エイズと命」をテーマに講演を行った。	12月	青森・五所川原第一中学校	2人	青森の中学生約300人	216
普及活動事業	HPやリーフレット、ニュースレターを活用、イベント等で広報に努めた。	通年	法人事務所、他	約20人	寄付者、参加希望者、不特定多数	4,325